



手結港(内港)



副読本「香南の暮らし」より抜粋

手結港は、とても価値がある史跡だったのです！ 副読本より一部紹介します。

○手結港(内港)

350年ほど前、この付近は手結浦とよばれる漁村でした。そのころ、高知(浦戸)から室戸の間には、港らしい港がありませんでしたから、参勤交代をはじめ、船便など大変不自由でした。そればかりか、嵐が来ると逃げ場所がなく、商船の荷物や漁船、時には人の命を失うこともありました。

そこで山内家の家来だった野中兼山は、手結に港を築くことにしました。陸地を人力で掘って行って石積みで周囲を固めて港を造るという手法を取り、1655年に完成しました。

こうしてできあがった手結港は、実は日本一古い掘り込み港なのです。

また、今もその原形をとどめ、利用されている非常に歴史的価値が高い港として、観光や歴史探索とともに、地域の生活に密着した港として親しまれています。

副読本「香南の暮らし」は大人が読んでもよくわかる！

子どもたちのための「副読本」ですが、わかりやすく書かれたことばは読みやすく、大人にとっても香南市の歴史や、人、暮らし、産業などを知らるために役立てることができる内容です。

市役所各庁舎、図書館、郵便局、銀行、一部の病院などに置いています。市教育委員会で購入もできます。

副読本を編集された
有安文昌さん(夜須町)

全国版教科書は、全国の市町村や県を網羅できないので特に目的に合った地域を選んで学習の方法を示しています。従って、全国版教科書だけでは社会科教育が困難です。このため、中学年社会科は、自分の居住地市町村と県を舞台に副読本を使い学習します。

そういう意味で、本市の副読本「香南の暮らし」が活用されたことは、たいへん意義のあることだと思っています。

手結港の全国版教科書への掲載は、非常に喜ばしいことであり、子どもたちが誇りを持って香南市の歴史に触れてくれることをとても嬉しく思います。

今後時期を失せず、まず官そして民と連携して港の保存・学習研究・観光などの策が出されることを望みます。



手結港が全国版の 社会科教科書に!!



▲全国版教科書「小学社会3・4年」
発行: 日本文教出版

この副読本「香南の暮らし」の中にある「手結港を開いた野中兼山」の内容が高く評価され、来年度の小学3・4年生用全国版社会科教科書に取り入れられることになりました。香南市でもこの教科書を使って授業が進められます。

このように、私たちの住む香南市には全国の子どもたちが学習する手がかりとなる貴重なものが残されています。私たちも、「香南の暮らし」を片手に、今一度まちの大切な文化遺産に触れてみましょう。

「自分たちのまちを知る」 香南の子どもたち



手結港って
すごい港
だったんだニャー!